

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	雲洞グループホームつばき園
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	新潟県南魚沼市雲洞623-5
記入者名 (管理者)	糸山 和子
記入日	平成 20 年 6 月 15 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑
取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>運営規定、重要事項説明書、各種パンフレット等で、その目的、方針、理念を明記し内外へ示している。</p>	<p>社会の一員としてその人らしい暮らしが営めるように地域社会との連携を深めていきたい。</p>
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>見える場所に掲示している。問題、課題の分析や解決に際し理念に即して対応するよう話し合いを行っている。</p>	<p>個々の生活歴に即した作業や活動が出来るように農作業、調理、たたみ物などを提供している。出来る事、やりたい事への支援を地域社会と協同して取り組んでいきたい。</p>
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>自治会に入会している。回覧版などを利用し、施設の情報発信をするとともに地域の情報を得て、積極的に交流を持つよう勤めている。ご家族へは毎月のお便りを通じて利用状況の報告、行事へのお誘いやお願いなどをさせていただいている。</p>	<p>地域の方々やご家族が気軽に立ち寄れる施設でありたい。施設を知っていただく為に定期的なお便りやお知らせ等、随時情報発信をする。</p>
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>毎日のごみ捨てや散歩の折には、挨拶やお話をさせていただいている。1Fのデイサービスに立ち寄っていただき茶話会に参加していただいたり、子供たちとの交流も出来るよう勤めている。</p>	<p>お散歩や園芸活動など戸外で過ごす時間を多く持つことにより地域の方々との交流を深めていきたい。</p>
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>自治会に入会している。回覧版などを利用し、施設の情報発信をするとともに地域の情報を得て、積極的に交流を持つよう勤めている。老人会の作業や行事に参加させていただいている。また、今年7月の地域の防災訓練に参加を予定している。</p>	<p>地域活動に積極的に参加するとともに、施設の活動にも参加して頂けるようにはたれきかける。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	施設の行事に近隣の高齢者の方々をお誘いし、参加いただけるよう務めている。		地域と共同して、施設の専門性を生かした関りが出来るようにしていきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価、外部評価の意義、理解においては個々に依存しているところがあり、全体で話し合いを重ね、共通の理解のもとに改善への取り組みが為されていない。		外部評価を活かして、全員で一致した考えの元、改善に取り組みたい。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	外部評価結果については、地域推進会議で報告している。会議の際には、改善への取り組みについて具体的なアドバイスをいただいている。		会議には利用者、家族、職員が出来るだけ多く参加し意見を述べる事が出来るようにしていきたい。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	毎月開催される市の連絡部会、2ヶ月に1回の運営推進会議で定期的に話し合いが為されている。しかし、具体的なサービスについて積極的に話し合う機会を持ってはいない。		地域密着型の事業所として行政と話し合いを持ちながらより良いサービスを実施していきたい。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者、相談員は、これら制度についての研修を受けている。必要と思われる人には活用できるよう支援している。		順次、研修に参加し学んでいきたい。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者は研修に参加している。日々のミーティングで話し合っている。		順次、研修に参加し学んでいきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約書、重要事項説明書をもって説明させていただいている。</p>		<p>口頭のみならず、文書で明らかにする。</p>
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情相談窓口を設けている。また、日々のかかわりの中で訴えを十分聴くよう勤めている。</p>		<p>うまく表現できない利用者も居られるので、気づきを大切にしている。</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月のお便りでお知らせしている。急を要する場合は、電話にて報告、連絡、相談をさせていただいている。</p>		<p>お便りの継続と内容の充実を図る。</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情相談窓口を設けている。また、ご家族へは電話連絡、面会の折にいろいろなお話を伺えるよう勤めている。</p>		<p>定期的にアンケートを実施する。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>日々のミーティング、月1回の職員会議等で意見を聞いている。</p>		<p>意見、提案に迅速に対応する。</p>
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>行事、受診などを考慮した職員配置ができるよう、他施設との連携を図り、努力している。</p>		<p>他施設の応援協力を得ている。</p>
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>人事異動は最小限にとどめている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体の研修、職種別の研修を年間事業計画に盛り込み、計画的に実施している。部外研修については、順次全職員が参加できるよう努力している。		計画的に全員が研修を受けることが出来るようにする。
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のグループホーム協議会、地域の連絡部会に参加している。		ネットワークの強化
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	年1回の面談、随時相談に応じている。		意見交換の機会を増やす。
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	業務管理シートの活用、面談などで状況把握に勤め、話し合う機会を設けている。		意見交換の機会を増やす。
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家庭やサービス利用中の面会などで、ご自身の気持ちを聴く機会を作り、受け止める努力をしている。		より多くの情報収集に努める。
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家庭訪問や施設に出向いていただき話し合いの機会を多く持つように勤めている。		相互に納得がいくまで十分な話し合いの機会を持つ。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族との面談、担当ケアマネージャーとの話し合い等関係機関と相談をしている。		関係機関と十分話し合う。
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人、家族の希望により体験入所、見学を実施している。		本人にとっての最善を考えて無理のない利用につなげる。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ともに過ごす時間をより多く持つよう心がけている。		専門職としての倫理観を持つ。
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	行事への参加、受診の付き添いなど連携を取りながら支援している。		情報の共有を図る。
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	離れていても家族としてのかかわりを強く持ち続けることが出来るように誕生会や行事のお誘いなどきっかけ作りすることを心がけている。		本人、家族が逢いたいときに逢えるように支援する。
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの美容院へ出かけたり、年賀状を出したり、知人へ電話をしたり、自宅付近へドライブに出かけている。		関りが継続できるよう、家族の協力を得る。
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	相互に出来るところは行い、出来ないところは助け合えるよう、職員は仲介している。		お互いを認め合い、助け合って生活できるよう支援する。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	お手紙で近況を伺っている。		縁を大切にしていきたい。
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活歴を重視し、今まで営んできた日常を断ち切ることなく暮らせるよう支援している。		その人らしさを大切にする。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前調査や日々のかかわりを通して把握するよう努めている。		本人との会話や家族からの情報収集を図る。
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	画一的なサービスとならないよう一人一人のペースに合わせた介護をするよう勤めている。		出来ること、やりたい事を把握する。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアマネージャーが中心となり介護計画を作成している。本人、家族と十分な話し合いが出来ていない。		随時カンファレンスを開催する。
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的に見なおしている。状態変化に迅速に介護計画の変更が為されていない。		随時カンファレンスを開催する。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録はかかわった職員全員が記録するようにしている。介護計画に即して記録をしている。		介護計画に即した介護を行い、記録に残す。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	1F デイサービスとの交流、地域との交流を通じて、日常生活に張り合いがもてるよう支援している。		デイサービスとの交流の充実を図る。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティアの訪問で演芸を楽しんでいる。警察、消防へは、認知症の方々の施設であることを周知いただいている。映画鑑賞会にご招待いただくなど理解と協力を得ながら支援している。		施設内で完結させるのではなく、ひろく地域社会と協働して生き生きとした暮らしが出来るように支援する。
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	随時連絡をとっている。		連携して取り組む。
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	随時相談をしている。		連携して取り組む。
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診や専門医療機関への仲介をさせていただいている。		連携して取り組む。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	定期受診に加え、状態変化に応じ、職員が相談している。		連携して取り組む。
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	1Fデイサービスの看護師と相談しながら日常の健康管理を行っている。		連携して取り組む。
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	その都度、情報交換をし安全、安心してすごせるよう相談している。		連携して取り組む。
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	順次、家族と話し合いをしている。		具体的な内容を持って話し合う。
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	医療との連携が構築されておらず、チームとして取り組んでいない。		「出来ること・出来ないこと」を明確にする。
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	本人にとって最善のところが見つかるよう支援している。		本人にとって最善の選択が出来るよう支援する。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>			
<p>1. その人らしい暮らしの支援</p>			
<p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
50	<p>プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>個人の尊厳に配慮した言葉使いを心がけている。個人情報にかかわることが他者の目に触れないよう注意している。</p>	<p>専門職としての倫理観を持つ。</p>
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>無理強いすることなく、自分で決めて行動できるよう支援している。いっしょに行動することにより理解していただいている。</p>	<p>一緒に作業をすることにより、出来ることを見つける。</p>
52	<p>日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>やりたい事、好きな事、出来る事を介護計画に示し意図的にかかわるようにしている。</p>	<p>本人が一日の過ごし方を決めることが出来るよう支援する。</p>
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>馴染みの美容院や理容院へ出かけている。外出時の服装や身だしなみは本人の希望に添うとともに点検させていただいている。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>利用者間で役割分担が出来てきており、出来ない部分を職員が補っている。</p>	<p>献立や行事食のメニューを職員と一緒に考える。</p>
55	<p>本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>病状、健康状態を考慮して、提供している。</p>	<p>日常的に楽しめるよう支援する。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	言葉がけや随時のトイレ誘導を行っている。		トイレで排泄できるように排泄パターンを把握し随時誘導する。
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	デイサービスの一般浴、機械浴も使用し本人の好みを優先し、安全安楽な入浴を提供している。但し、日曜日、夜間の入浴は職員体制の都合で実施できていない。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	就寝、起床、午睡は強制するものではなく、個々に合わせて対応している。室温、明るさ、音等に配慮している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	農作業、家事労働、かつての仕事が生かせる活動が出来るよう支援している。ドライブ、散歩、買い物など外出の機会が少ない。		外出の機会を増やす。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人、家族の意向に添っている。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	出かけたい時に即対応できていない。		家族、ボランティアの協力を得て、外出の機会を増やす。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	お花見、紅葉狩り、温泉、映画観賞などに出掛ける機会を作っている。		家族、ボランティアの協力を得て、外出の機会を増やす。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に添って支援している。		年賀状や暑中見舞いのお便り等が出せるよう支援する。
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間に制限はなく、自由に訪問していただけるようにしている。		面会室がない為、居室以外でもみずいらずで話ができるスペースをつくる。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	理解している。安全を最優先し、ご家族の了解を得てベツト柵を使用することが有る。		専門職としての倫理観をベースにした知識、技術の習得。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵を掛けることそれ自体が利用者の大きなストレスとなっていることを理解している。しかしながら、非常口、出入口は危険防止のため施錠している。		ドアの鈴をつけたり、センサーの設置を検討する。
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	利用者の状況を全職員が把握しておけるよう、報告、連絡、相談の徹底に勤めている。		利用者の状況を全職員が把握しておけるよう、報告、連絡、相談の徹底に勤めている。
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬品等は鍵のかかる場所に保管している。液体の手洗い洗剤を石鹼に換えて飲み込む危険のないようにしている。		安全が確保されているか点検。
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	毎日のミーティングで情報を共有し、ケアの統一えを図るとともに事故防止に取り組んでいる。		マニュアル化し、周知徹底する。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	定期的には実施できていない。		定期的には訓練を実施する。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	非難誘導訓練を毎月1回実施している。地域の消防団との訓練も実施している。		地域と連携して訓練を実施する。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	状態変化が懸念される場合、家族と話し合いをしている。		安全に暮らす為に家族と一緒に考える機会をもつ。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	申し送り、介護記録、業務日誌等で情報の共有を図っている。		「いつもと違う何か」への気づきを養う。
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	与薬は複数の職員がかかわり、事故防止に努めている。薬の変更、処方箋は常時閲覧できるようになっている。		情報化して、全職員に周知徹底する。
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	体を動かす機会の少ない利用者には、入浴時の可動域訓練や腹部マッサージを随時行っている。		毎朝のTV体操の実施。デイサービスのアクティビティーで体を動かす。散歩に出掛ける。
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	個々に実施している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	活動量、体調、病状等に応じて提供している。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアル化している。		定期的に訓練を実施する。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	手洗いの励行、まな板や布巾の消毒、食品の賞味期限や消費期限の確認など衛生管理に努めている。		利用者への食中毒への注意の喚起。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	日中玄関には鍵を掛けない。玄関脇にベンチや植物を配し、くつろぎの場を設けている。		ベンチの位置を工夫する。
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	自然に囲まれた静かな環境に有る。リビングに光が差し込まない為、天候の悪い日は、日中でも蛍光灯をつけている。月ごとに掲示物を換えて季節感を出している。		テーブルの配置、暖簾・カーテン等使用し居心地の良い環境を作る。
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	3人がけのソファ、1人用のソファが別々に配置してある。		家具の配置を工夫する。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人、家族の意向に添っている。		使い慣れたもの、好きなものを居室に置けるよう家族の協力を得る。
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	事故防止の為、窓の開閉に制限がある。その為こまめに喚起をするよう心がけている。エアコンの調整は本人の希望に添いながら職員が行っている。		温度計を設置し、快適に過ごせるよう配慮する。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの設置、バリアフリー、車椅子対応のトイレ、エレベーターの設置等身体状況に応じて安全に暮らせるよう配慮している。		手すりの必要性等随時検討し、環境を整える。
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	絵や文字の張り紙をして注意を促している。		専門的技術、知識をもって支援する。
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	プランターで野菜や花を育てている。		散歩や作業の合間に、一休み出来るようなコーナーをつくる。

サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

・1Fのデイサービスの利用者、職員との交流が毎日のように有ることにより、日々の活動に変化があり、活発である ・豊かな自然の中で花や野菜を育てたり、四季折々の情景を楽しむことにより、豊かな感性を育むことが出来るよう支援している。 ・地域のお茶の間となれるよう園内行事へお誘いしたり、また地域行事へ参加させていただいたりして交流を深める取り組みをしている。